

JENESYS2022 日フィリピン社会福祉交流の記録（オンライン招へい）

1. プログラム概要

【目的】フィリピンの大学で看護学を学んでいる大学生及び、日本や海外における看護師や介護福祉士をテーマに研究している若手研究者が、オンラインで訪日し、講義や視察、専門家などとの意見交換を通して日本の社会福祉制度への理解を深めること、及び日本とのネットワークを構築することを目的として、本プログラムを実施しました。

【参加者】 フィリピンの大学生、研究者等 計 83 名

【訪問地】 事前学習：東京都、オンラインプログラム：北海道、京都府

【日程】

このプログラムは、一部他のプログラムと合同で実施しました。

日にち 訪問地	内容	参加者の質問・反応
事前学習（参加人数：計 66 名）		
2022 年 8 月 23 日 東京都	（注）他のプログラムと合同実施 【オリエンテーション】 【講義・質疑応答】 【意見交換】 ① オリエンテーション、JENESYS 概要 ② 日本理解講義 「Japan Today」 講師：木村 秀夫氏 SIMA 国際経営研究所 所長 ③ 記念撮影 ④ 質疑応答 ⑤ 対外発信依頼、アンケート回答、閉会	豊富な写真や図を用いた講師の説明に多くの参加者は頷いたりメモを取ったりするなど大変熱心に聴講し、内容を十分理解していた様子でした。質疑応答では、多岐にわたる多くの質問が寄せられました。主な質問は以下の通りです。「日本の政府や社会は、日本の古い文化や歴史を現代に活かすための方策を講じているか」「日本では落としたお金は戻ってくるということだが、日本人はお金に対してどういう考えをもっているか」「日本の人口の減少と高齢化に対して、日本政府は何か対策を行っているか」等。
訪日前迄 の個別学 習	【動画視聴】 ① 外務省挨拶 ② 事前オリエンテーション ③ ホームビジット体験 ④ 日本文化理解（京都） ⑤ 日本語学習 ⑥ 8 月 23 日講義「Japan Today」	プログラムへの理解を深めるため、参加者は、日本やプログラムに関する動画を視聴しました。

オンラインプログラム（以下7日間の参加人数：計17名）		
<p>1日目 2023年 2月1日 東京都、 北海道</p>	<p>【オリエンテーション】 （注）他のプログラムと合同実施</p> <p>① 開会 ② オリエンテーション パート1 プログラム概要・目的説明 ③ オリエンテーション パート2 日程、プログラム詳細説明 ④ グループ別参加者交流 ⑤ 記念撮影 ⑥ 閉会</p>	<p>報告会発表のためのグループディカッションでは、アクション・プランに求められていること等、プログラムの核心をついた質問も多く、プログラムに対して期待を持ち、積極的に参加する様子がうかがえました。</p>
<p>2日目 2023年 2月2日 北海道</p>	<p>【テーマ関連施設視察・質疑応答】 株式会社マルベリー</p> <p>① 開会 ② フィリピン人介護福祉士のインタビュー、記念撮影 介護福祉士： 岩内ふれ愛の郷 アライ レヤ ジェーン氏 アバオ アダ マリー カストロ氏 タブリゾ キーシャ エヤオ氏 ③ 介護ロボットの紹介、デモンストレーション 登壇者：株式会社マルベリー 住宅事業部 稲葉 有沙氏 ④ 質疑応答・記念撮影 ⑤ 閉会</p>	<p>ほとんどの参加者が介護ロボットを見たことや操作した経験がなく、熱心にプログラムに参加していました。フィリピン人介護福祉士のインタビューにも質問を寄せていて、参加者が関心を持っていることがうかがえました。</p> <p>主な質問：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本での仕事で直面した最大の課題は何か？ ● 日本の医療制度の基で働いていて、最大の課題と、やりがいを感じたことは何か。 ● 介護者がロボットの操作やトラブル時の対応を習得するには、どのくらいの時間がかかるか。 ● 介護者がロボット操作のトレーニングを行う前に、必要な知識とスキルは何か。 ● 介護ロボットは、将来の介護福祉士の雇用機会に影響を与えるか。
<p>3日目 2023年 2月3日 北海道</p>	<p>【テーマ関連講義・質疑応答・意見交換】</p> <p>① 開会 ② 講義 「EPAに基づくフィリピン人看護師・介護福祉士候補者受入れについて」 講師：公益社団法人国際厚生事業団（JICWELS）</p>	<p>関心をもって講義を聞いていました。熱心にメモをとる参加者も見受けられ、様々な質問が寄せられました。</p> <p>主な質問：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 日本の国家試験はアメリカの国家試験とどのように違いますか。 ● EPA 看護師と EPA 介護福祉士の給料

	<p>受入支援部長 稲垣 喜一氏</p> <p>③ 質疑応答</p> <p>④ 記念撮影</p> <p>⑤ 閉会</p>	<p>はどれくらいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● フィリピンのEPA看護師とEPA介護福祉士候補者に関して日本の国家試験合格率はどのくらいですか。
<p>4日目</p> <p>2023年</p> <p>2月4日</p> <p>京都府</p>	<p>【日本文化体験】</p> <p>(注) 他のプログラムと合同実施</p> <p>茶道体験</p> <p>① 開会</p> <p>② 講義・実演</p> <p>「茶道 お茶と和菓子の作法について」</p> <p>講師：一般社団法人 茶道裏千家淡交会 京都北支部 副幹事長 鈴木 宗博氏</p> <p>③ 質疑応答、記念撮影</p> <p>④ 閉会</p>	<p>茶道のお点前に関する説明に加え、抹茶の種類や四季折々に作られる繊細なデザインの和菓子の紹介があり、参加者はその美しさに関心を寄せていました。長い歴史を持つ日本文化、茶道文化の継承の大切さを参加者は学んでいた様子でした。</p>
<p>5日目</p> <p>2023年</p> <p>2月5日</p> <p>北海道</p>	<p>【視察】</p> <p>(注) 他のプログラムと合同実施</p> <p>北海道小樽市バーチャルツアー</p> <p>① 北海道小樽市概要説明</p> <p>② 小樽市祝津地域のドローン中継</p> <p>③ バーチャルツアー</p> <p>小樽市堺町通～小樽運河</p> <p>ガイド：一般社団法人小樽観光協会 おもてなし力推進プロジェクトメンバー 高橋 龍氏</p> <p>④ 質疑応答</p> <p>登壇者：一般社団法人小樽観光協会 事務局次長（事業推進担当） 永岡 朋子氏</p> <p>⑤ 記念撮影</p> <p>⑥ 閉会</p>	<p>プログラム中、Zoomのチャットに様々なアクションをしながら参加者は日本の地方からの中継や説明に興味を持って聴講していました。ドローンからの映像や小樽市の堺町通り、小樽運河周辺の散策のオンライン体験を楽しんでいました。質問の中にも小樽を訪れたいという参加者の希望が表れていました。</p> <p>主な質問：</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人ごみを避けて楽しめるお勧めの場所はあるか。 ● 小樽のコーヒー文化にはどのような特徴があるのか。 ● 小樽のチーズケーキのおいしさを世界によく知られたものにした秘訣は何か。 ● 小樽市を十分楽しむためにはどれくらいの滞在期間がお勧めか。 ● 東京からどのようにして北海道に行くか。時間はどれくらいか。 ● 小樽を訪れるのに最高の時期はいつですか。

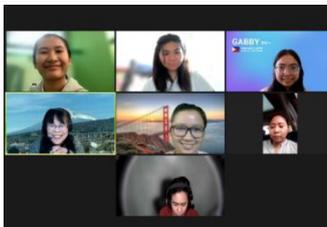
<p>6日目 2023年 2月6日 北海道</p>	<p>【ワークショップ】 (注) 他のプログラムと合同実施 報告会の発表準備 ① ワークショップの説明 ② アクション・プラン作成(グループ別) ③ 閉会</p>	<p>グループメンバー同士、熱心に協力しながら発表資料をまとめていました。各グループにおいてワークショップ開始時点で発表内容の骨子はまとまっていたので、資料にまとめる作業を中心に行い、ワークショップ終了までに発表資料を提出していました。</p>
<p>7日目 2023年 2月7日</p>	<p>【報告会】 (注) 他のプログラムと合同実施 ① プレゼンテーション(各グループ) ② 講評 ③ 記念撮影 ④ 閉会</p>	<p>各グループ発表時には、学んだこと、印象深かったプログラムやSNS発信、アクション・プランについて述べており、また、参加者は他のグループの発表を熱心に聞き、意見を寄せたり、リアクションしたりする参加者も多くいました。</p>

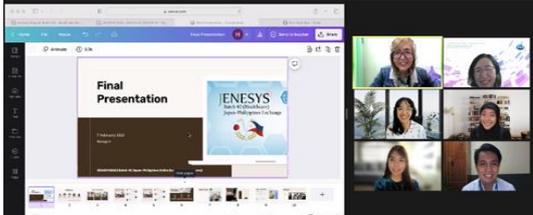
2. 記録写真

事前学習

	
<p>8月23日【オリエンテーション】</p>	<p>8月23日【講義・質疑応答】「Japan Today」</p>
	
<p>8月23日【講義・質疑応答】 質疑応答の様子</p>	<p>8月23日 記念撮影</p>

オンラインプログラム

	
<p>2月1日【オリエンテーション】</p>	<p>2月2日【テーマ関連施設視察・質疑応答】株式会社マルベリー 介護ロボットの紹介</p>

	
<p>2月3日【テーマ関連講義・質疑応答・意見交換】「EPAに基づくフィリピン人看護師・介護福祉士候補者受入れについて」</p>	<p>2月4日【日本文化体験】茶道体験</p>
	
<p>2月5日【視察】北海道小樽市バーチャルツアー</p>	<p>2月6日【ワークショップ】</p>
	<p>2月7日【報告会】プレゼンテーションの様子</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学院生

包括的で有益なディスカッションを提供していただきありがとうございます。昨年初めに日本語を学び始め、今は、日本の文化をもっと学びたいと思っています。日本とフィリピンの異なる文化にも興味があります。私が最も印象に残っているのは、両国間の信頼と相互理解を強化・構築し、文化の違いと情報を共有して日本への世界的な関心を生み出すという JENESYS の目的です。

◆ 社会人

日本がユニークで、世界で最も優れた国の一つである理由を理解する素晴らしい機会を与えてくださり心から感謝しています。私がテレビ、本、雑誌、ソーシャルメディアで見て得た知識がすべて、木村先生との議論によって正しいことがわかりました。このプログラムを受講して、私は日本を訪れることがより楽しみになり、胸が高まっています。ありがとうございました。

◆ 社会人

個人的には、茶道体験と北海道小樽市のバーチャルツアーが印象的でした。日本文化についての知識はほとんどありませんでしたが、日本の歴史と文化が大変魅力的だということを発見しました。また、特に働き手の作業を容易にするという点で、今後ロボットが社会福祉分野をどのように変えるかについても興味深かったです。

◆ 大学生

バーチャルツアーは最高でした。オンラインにも関わらず、小樽市での典型的な日本人の生活を垣間見ることができました。これ以外にも、茶道体験では、場の雰囲気、点茶動作の質を堪能できました。お点前の様子がよく分かるカメラワークなども素晴らしかったです。大変すばらしい体験ができました。

◆ 社会人

バーチャルで小樽市を案内してもらい、日本の茶道について学ぶことができ大変印象的でした。また、ロボットのさまざまな機能のライブ・デモンストレーションも素晴らしかったです。ロボットが動いているのを見ることで、よりイメージしやすくなったように思います。

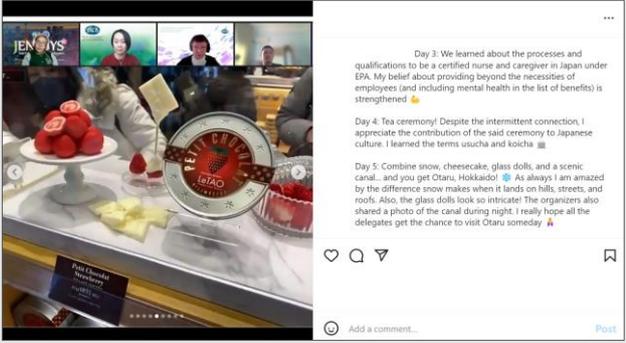
4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先

準備から当日まで、迅速かつ丁寧なご対応ありがとうございました。私たちも大変貴重な経験をさせて頂き、感謝しております。初めての試みでしたので不安もありましたが、JICEの方々の適切なサポートを頂いたおかげでプログラムを無事に終了することが出来ました。本当にありがとうございました。

5. 参加者の対外発信

	
<p>2022年8月23日（Facebook）</p> <p>ブルネイとフィリピンのための JENESYS オンラインプログラムの参加者の一人になれてとても嬉しいです！木村先生から日本の科学と工業生産における日本の技術的進歩について楽しく学べました。</p> <p>いつかきっと私も日本の素晴らしさを体験できると思っています。</p>	<p>2023年2月3日（Instagram）</p> <p>本日は、経済連携協定（EPA）制度の下での介護福祉士志望者におけるフィリピン人看護師の就労機会について、国際厚生事業団（JICWELS）からお話を伺う機会がありました。私が考えていたキャリアの道とは違っていますが、この協定が私たちの看護師と介護者が日本で働くのにどのように有益であるかについて詳しく説明を聞きました。EPA のスキームは、日本での仕事に応募する際のボトルネックを最小限に抑え、無料の日本語クラスを提供し、新人に寛容な環境を準備し、さらにはフィリピン人がお互いに</p>

	<p>ネットワークを形成できるようにすることで、応募者が日本の生活に溶け込めるよう支援するもので、少しでも身近に感じてもらえるような制度です。フィリピン人の仕事に対する技術レベルと献身的な仕事ぶりは心から信頼されているので、日本にいる他のヘルスケア業界の従事者がさらに多くの機会が与えられることを願っています。</p>
	<p>2023年2月5日（Instagram）</p> <p>3日目：日本で 経済連携協定（EPA）の基で看護師及び介護福祉士になるためのプロセスと資格について学びました。従事者が定められた業務以上のケアを提供すること（及び福利厚生メンタルヘルスを含めること）に対する私の信念が強化されました。</p> <p>4日目：お茶会！インターネットが時々途切れましたが、私は茶道が日本文化に影響していることを認識することができました。それから薄茶と濃茶という言葉学びました。</p> <p>5日目：雪、チーズケーキ、ガラス人形、風光明媚な運河の組み合わせ…それが北海道の小樽です！雪が丘や通り、屋根に降り積もったときの景色が変わることにいつも驚かされます。また、ガラスの人形はとても複雑に見えます！夜の運河の写真も見せてくれました。参加者みんながいつか小樽を訪れる機会を得られることを心から願っています。</p>

6. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表（抜粋）

フィリピン・オンライン交流（社会福祉）①

 <p>ACTION PLAN</p>	<p>Bridging the Gap: Strengthening Japan and Philippines Healthcare Diplomacy</p> <p>ONLINE ADVOCACY CAMPAIGN</p> <p>Description:</p> <ul style="list-style-type: none"> This is an online campaign that will feature 4 key topics learned in JENJOYS <ul style="list-style-type: none"> Nursing robots in Japan Benefits and Procedure to be a Japan Nurse Japan tea ceremony Beauty of Hokkaido City <p>Duration:</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-3 weeks for preparation (research, designing of graphics, writing of captions) 1 month for publishing (1-2 per week) <p>Target audience:</p> <ul style="list-style-type: none"> 15-40 years old; and, Filipinos with interest in Japanese culture and would like to visit Japan one day 	<p>Objectives</p> <p>The objectives of bridging the Gap strengthening Japan and Philippine Healthcare Diplomacy include:</p> <ul style="list-style-type: none"> Raising awareness about the current state of healthcare in both countries and the need for cooperation and collaboration. Advocating for improvements in specific areas of healthcare, such as access to medical services, quality of care, and technology. Encouraging the sharing of best practices and knowledge between healthcare professionals in both countries. Encouraging the development of partnerships and collaborations between healthcare organizations and institutions in Japan and the Philippines. Generating interest and support for healthcare-related events and initiatives that promote cooperation between Japan and the Philippines. Promoting public awareness and media coverage in both countries to prioritize healthcare cooperation in their respective countries. Raising public awareness of the benefits of stronger healthcare diplomacy between Japan and the Philippines.
---	---	---

「オンライン支援キャンペーン」

- 実施理由：日本とフィリピンのヘルスケア外交の強化

- 実施計画：JENESYS で学んだ4つのポイントをテーマにしたオンラインキャンペーン
 - 日本の介護ロボット
 - 日本で看護師になるメリットと手続き
 - 日本の茶道
 - 北海道の美しさ
- 実施期間：準備（調査、グラフィックのデザイン、キャプションの作成） 2～3週間、公開1ヶ月（週1、2回）
- ターゲット：15～40歳、日本文化に興味があり、いつか日本に行きたいフィリピン人
- 実施目的：
 1. 両国の医療の現状と、協力の必要性についての意識を高める。
 2. 医療サービスへのアクセス、ケアの質、テクノロジーなど、ヘルスケアの特定の分野の改善を提唱する。
 3. 両国の医療専門家の間でベストプラクティスと知識を共有することを奨励する。
 4. 日本とフィリピンの医療機関との間のパートナーシップとコラボレーションの発展を奨励する。
 5. 日本とフィリピンの協力を促進するヘルスケア関連のイベントやイニシアティブへの関心と支援を生み出す。
 6. 両国の政策立案者と意思決定者にそれぞれの国でのヘルスケア協力を優先するよう奨励する。
 7. 日本とフィリピン間のヘルスケア外交を強化することの利点について、国民の意識を高める。

フィリピン・オンライン交流（社会福祉）②

Topics for discussion

Dissemination on social media

Group Action Plan

What? To potentially discuss the following topic: Nursing Care Services for the Elderly in the Philippines: Current and its Current State.

Why? Below is the projected objective of the action plan: to discuss the current status of nursing care services for the elderly in the Philippines.

Who? The target audience for the action plan would be anyone in line with the medical field (e.g. students, professional, working professionally).

How? It will be held virtually through a webinar and a speaker who has expertise in nursing care field will be invited as a speaker.

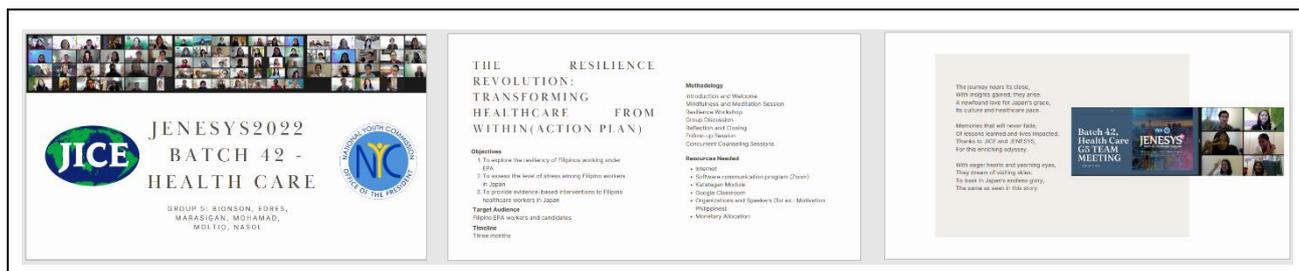
When? Tentatively on a weekend (Saturday) at 1-2:30pm. To be confirmed once finalized with the invited speaker.

「介護に関するフィリピンにおける紹介」

フィリピンでの介護状況についての認識を深め、介護ロボットの導入等を含め、フィリピンでの介護現場の向上を目指す。

- 実施計画：フィリピンの高齢者向け介護サービスの背景とその現状について議論する。
- 実施目的：フィリピンの高齢者介護サービスの現状について話し合う。
- 実施する者：医療分野に携わるすべての人。（例：学生、専門家、社会人）
- 実施方法：ウェビナーを通じて開催し、看護の専門知識を持つ人を講演者として招く。
- 実施時期：暫定的に週末（土曜日）の午後1時から2時30分。招待する講演者が確定次第決定する。

フィリピン・オンライン交流（社会福祉）③



- 行動計画：レジリエンス革命→ヘルスケア業界を内側から変える
- 目的
 1. EPA の基で働くフィリピン人のレジリエンスを調査する
 2. 在日フィリピン人労働者のストレス度を評価する
 3. 在日フィリピン人医療従事者にエビデンスに基づいた介入を提供する
- 対象者：フィリピンの EPA 労働者と候補者
- 実施期間：3 ヶ月
- 実施方法：
 - 開会とプログラムの説明
 - マインドフルネスと瞑想セッション
 - レジリエンス・ワークショップ
 - グループディスカッション
 - 振り返りと締めくくり
 - フォローアップセッション
 - 同時カウンセリングセッション
- 必要なリソース
 - インターネット
 - ソフトウェア通信プログラム（Zoom）
 - Katatagan（レジリエンス）モジュール
 - グーグル・クラスルーム
 - 団体と講演者（例：団体 Motivation Philippines）
 - 金銭的配分（イベント実施のための予算、費用）

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）